

氏名： 棚橋 訓 (TANAHASHI Satoshi)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 博士 (社会人類学) (2002年2月、東京都立大学)
Ph.D. in Social Anthropology, Tokyo Metropolitan University, 2002.
職名： 教授
専門分野： 文化人類学、社会人類学、歴史人類学、
オセアニア地域研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究
Socio-Cultural Anthropology, Historical Anthropology,
Oceanic Ethnography, Gender and Sexuality Studies
E-mail: tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

文化人類学/歴史人類学/オセアニア地域研究/ジェンダー・セクシュアリティ研究/文化景観
Cultural Anthropology / Historical Anthropology / Oceanic Ethnography /
Gender and Sexuality Studies / Cultural Landscape

◆主要業績

総数 (12) 件

- ・『人類の歴史・地球の現在—文化人類学へのいざない』(本多俊和・三尾裕子との共編著), 東京: 放送大学教育振興会 (日本放送出版協会), 227p., 2007年4月.
- ・『歴史考古学と文化人類学』, 鈴木公雄ゼミナール (編) 『近世・近現代考古学入門—「新しい時代の考古学」の方法と実践』, 東京: 慶應義塾大学出版会, pp.281-283., 2007年10月.
- ・『地図のカーレナード・メイソンの『ローラ・レポート』を読む』, 塩田光喜 (編) 『オセアニアの知と権力』, 千葉: 日本貿易振興機構アジア経済研究所, pp.169-186., 2008年3月.
- ・『「男性同性愛者」のセクシュアリティから「男性」ジェンダーを見る—アジアにおける HIV/AIDS 問題の視点から (F-GENS Publication Series No.33)』 (新ヶ江章友との共編著), 東京: お茶の水女子大学 21世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」, 103p., 2008年3月.
- ・“Historicizing Landscape: The Trajectory of Japanese Colonial Development on Laura, Majuro Atoll, Marshall Islands” (Satoshi Tanahashi et al.), The 21st Pacific Science Congress Abstracts: Session 4-2 Land-Human Interaction in Oceanic Atoll Islands, p.206

◆研究内容 / Research Pursuits

2007年度は科学研究費補助金の研究分担者として (1)「オセアニア環境景観の考古学的・歴史人類学的総合研究とその現代的活用策の検討」(基盤(B)海外)、(2)「ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」研究の構築をめざして」(基盤(B))、(3)「トランスナショナルリズムと「ストリート現象」の人類学的研究」(基盤(A)海外)の3件、環境省地球環境研究総合推進費(地球の温暖化)の研究協力者として「環礁州島からなる島嶼国の持続可能な国土の維持に関する研究」の1件の資金による臨地調査研究をミクロネシアのマージナル諸島、同ポーンペイ、ポリネシアのクック諸島、同ニュージーランドにおいて実施した。また、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、日本貿易振興機構アジア経済研究所、国立民族学博物館、成城大学民俗学研究所の各機関の共同研究員として6件の共同研究に携わり、10件の学会研究発表等を実施した(うち、国際学会発表5件、英語による招待講演1件)。

During the scholastic year 2007, I conducted field researches in Marshall Islands, Cook Islands and NZ with four grants of JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research and Japanese Ministry of Environment Global Environment Research Fund. Research topics under the grants were as follows: (1) Archaeological and Historico-anthropological Studies on Oceanic Atoll Landscape Formations, (2) Construction of Locally-sensitive Gender and Development Studies, (3) Anthropological Studies on Transnationalism and Street-phenomena, and (4) Research on Sustainable Land Management in Atoll Island Countries. I was also appointed as the affiliated/visiting researcher of the following institutions: Tokyo University of Foreign Studies ILCAA, JETRO IDC, National Museum of Ethnology, and Seijo University Institute of Folklore Studies.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部において「文化人類学(基礎講義)」「人間と発達」「教育科学研究指導」「文化人類学概論」「文化人類学演習」等の授業を、大学院において「開発人類学」「開発人類学演習」「開発・ジェンダー論特論」「比較文化ジェンダー論」等の授業と研究論文指導を実施した。併せて大学院博士後期ジェンダー学際研究専攻院生を対象に実践スキル開拓のための「Professional Clinic」を自主講座として実施した。また、放送大学客員教授、東京大学・慶應義塾大学・成城大学・聖心女子大学・和洋女子大学の非常勤講師として文化人類学分野の教育と研究指導を実施した。

For the scholastic year of 2007, I gave the lectures, seminars, directed-reading courses for both undergraduate and graduate programs at Ochanomizu University. List of the courses I offered were as follows: Cultural Anthropology, Introduction to Cultural Anthropology, Seminars on Cultural Anthropology, Introduction to Educational Sciences, Development Anthropology, Special Studies on Development Anthropology, Comparative Studies in Gender and Culture. As a visiting professor of the University of the Air, I produced an introductory TV lecture series of cultural anthropology which has been on the air since April, 2007. I also gave undergraduate-level lecture series on different topics of cultural anthropology for the universities of Tokyo, Keio, Seijo, Sacred Heart, and Wayo.

◆研究計画

2007年度から、サンゴ礁学、自然地理学、地形学、考古学、形質人類学、海洋生態学、海洋工学、リモートセンシングの各分野の研究者との共同によるオセアニア環礁の地球温暖化適応策の総合的研究を開始した。今後は、文化人類学の立場から、オセアニア島嶼諸国の地球温暖化対策と国土保全の分野での実戦的な適応策をめぐる政策提言を視野に入れた、地球貢献型の研究を一層推進していく計画である。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究においては、公衆衛生学、疫学、社会学の各専門分野の研究者たちとHIV/AIDSの予防医学的な総合研究の始動を企画しており、文化人類学の新たな実戦的貢献の可能性を切り拓きたいと考えている。

◆メッセージ

私は文化人類学の視点と方法から現代世界の様々な問題群を実証的に分析・理解して、その成果を現代社会に還元することを目指して研究を続けています。フィールドワーク(現地での実態調査)によって人間の多様性をこまやかに捉えつつ、その背後にある普遍的課題に目を向けていくのが文化人類学という分野の特徴です。文化人類学では「多様性に向き合う眼」と世界をつなぐ「外向と共生の思考」を核に、研究を進めていきます。多くの受験生のかたがたにとって、文化人類学は、あまり耳にしたことのない未知の分野だと思いますが、お茶大に入学の際には、是非ともこの未知の分野に積極的に分け入り、現代世界を見る新たな眼(芽)を手に入れて頂きたいと思います。



Photo: Ewan Smith